令和4年度指定管理者評価シート

1　管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市宇宙劇場
(2)施設概要	①所在地　さいたま市大宮区錦町682番地2 JACK大宮 ②施設の設置目的　市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、もって地域文化の向上に寄与するため ③施設の概要　3～5階　ホール　傾斜型ドーム（直径23m） 座席数　280席（車いす席あり） 5階　第1集会室・第2集会室　定員各36名） 第3集会室　定員20名、研修室　定員48名
(3)指定管理者	株式会社五藤光学研究所
(4)指定期間、指定管理料	①指定期間 平成30年4月1日～令和5年3月31日 ②指定管理料（直近3か年） 令和2年度123,088千円、令和3年度114,882千円、令和4年109,431千円
(5)施設の管理運営の内容	①運営業務の状況（利用状況含む） ◇利用状況 ・会議室等利用者数41,401人（前年度40,629人） ・ホール関連事業利用者数53,010人（前年度40,229人） ◇業務実施状況 ・集会室等の貸出し ・プラネタリウムの投映、全天周ドーム映像の上映 ・教育普及業務、学校教育支援・学校等連携業務の実施 ②維持管理業務の状況 ・施設設備、備品等の保守管理 ・施設の清掃 ・施設の機械警備 ③その他の業務 ・日本宇宙少年団さいたま支部に対する活動支援
(6)収支状況	①収入 ・利用料金収入28,337千円　（前年度21,389千円） ・指定管理料109,431千円　（前年度114,882千円） ・その他収入657千円　（前年度395千円） ②支出 ・人件費97,370千円　（前年度90,305千円） ・事務費2,732千円　（前年度2,080千円） ・施設管理費及び事業費25,122千円　（前年度24,226千円） ・その他管理経費5,730千円　（前年度5,594千円） 【自主事業】 ①収入　11,537千円（前年度2,179千円） ②支出9,719千円（前年度1,075千円）
(7)利用者アンケート等による市民からの意見・要望等への対応	・当日の投映内容がわかり辛いとの声があったWEBサイトを一部改修し、投映スケジュール等の視認性の改善を図った。 ・展示が少ないという声に対応し、企画展示のスペースと内容を拡充し、改善を図った。
(8)その他	

２　提案内容の達成状況

（指定管理者から提案のあった項目の達成状況）

提案内容	達成状況
市民の平等利用のための方策	ユニバーサルデザインの考え方に基づき、全職員に対して社会教育施設向けの接遇研修、施設ミッション研修等を実施した。また、障がい者の皆さまが安心してご利用いただけるように筆談や職員による手話での案内が出来る様に準備を進めた。
施設の安全管理	「さいたま市教育委員会危機管理マニュアル」及び「危機管理マニュアル」を基本とし、さいたま市消防局の指導をいただきながら大宮情報文化センターの防災訓練（地震・火災）、宇宙劇場独自の防災訓練（地震）を実施した。 また、新型コロナウイルス感染防止対策として、マニュアルの整備（更新）、消毒液・飛散防止フィルム等の設置、フェイスシールド・マスクの着用、体温測定器の設置、利用者への案内、館内消毒等を徹底した。
利用者の満足度の向上	利用者満足度の向上に資する事業として、以下に挙げるような取り組みを実施した。 ・話題となった若田宇宙飛行士の5度目の宇宙飛行を記念した事業を実施 「ISSの若田さんに手をふろう！」では地域と連携し、近隣の商業ビルであるDOMショッピングセンターの屋上にて若田宇宙飛行士の滞在するISSを自らの目で見るというイベントを実施した。 「宇宙劇場まつり」においてもプラネタリウムコンテンツ「CHALLENGE TO THE UNIVERSE～若田光一の宇宙～」を投映したほか、若田宇宙飛行士からのメッセージを投映し、若田宇宙飛行士の活躍を記念したイベントとして開催した。 「若田宇宙飛行士展」においては、当館に収蔵されている若田宇宙飛行士関連の実物展示を行ったほか、これまでの活躍を豊富な資料を用いて実施した。また、展示の注目度が高かったため宇宙滞在中の活躍をまとめ、「シン・若田宇宙飛行士展」として企画展示を拡大・会期延長を行った。 ・同じJACK大宮ビル在所の放送大学埼玉学習センターと協同講演会を開催 「質の高い教育をみんなに」のSDGs目標に合致する事業として、放送大学共催講演会を2回開催した。星座・神話や宮沢賢治をテーマにした講演会は放送大学とのコラボレーションが無ければ実現できなかった特色のある講演会であり、高い品質の講演会を提供できた。 ・特別投映「癒しの時間」の実施 プラネタリウムに癒しを求める市民の声に応えるため、特別投映「癒しの時間Star Light Healing in HAWAII」を企画・制作した。制作にあたっては、音とリラクゼーション効果を科学的に研究するサウンドヒーリング協会と協働し、癒し効果の高い自然音をドーム空間で立体音響として提供するとともに、ハワイの美しい映像と星空、音楽を融合させた番組を投映した。 ・天体観望会（星をみる会）の充実化 天体観望会に合わせ実施していたプラネタリウムでのミニ星空解説について、拡大・充実化を求める市民の声に対応。通常投映と同じ時間をかけて行う特別投映と一体化し、より充実した観望会へと進化させた。
効果的なアンケートの実施	・ネットプロモータースコア（Net Promoter Score：NPS）の実施 今年度も昨年度に引き続き、世界的に多くの企業で実施されているNPSを採用し、実施した。今年度のスコアは40.3であった（このスコアは東京ディズニーランドやハウステンボスと同じ程度の高い値となっている）。また、顧客満足度に大きく関連する指標である再来館希望については、プラネタリウムでおよそ9割の再利用の希望がある。

天文・科学・文化の普及活動	天文・科学・文化の普及活動として以下を実施した。 ・学校連携及び体験型プラネタリウムの拡大 県内5校の高校と連携し、第2回目となる「高校生プラネタリウム文化祭」を開催した。高校生へのプラネタリウム番組制作研修も高度化し、高校生が自ら企画・制作に取り組み、プラネタリウムを実際に操作しながら発表することができた。 未来くるワークにおいては、継続して受け入れを行い、プラネタリウム操作体験を盛り込み、職業体験の深化を図った。 ・プラネタリウムにおける集客事業の開催 より多くの方にプラネタリウムに興味をもって足を運んで頂けるように、各種の専門家と連携した事業を開催した。「爆笑！星兄プラネタリウショー」では笑いに特化したプラネタリウムを投映する星兄が出演し、声優星空朗読会「ほし×こえ」では大人気声優が出演することで、普段はプラネタリウムに足を運ばない方の来館も多く、高い満足度のイベントを開催することができた。 ・太陽をみる会の開催 昼間の観望会として、太陽をみる会を開催した。夜間の活動が難しい方にもアプローチすることができた。 ・幼児投映の開催 幼児の発達段階に合わせた特別投映を期間限定で実施。通常投映への団体観覧ではなく、特別投映とすることでより深い体験を提供した。 ・館外での活動 例年実施している出張観望会の他、地域と連携した外部活動を実施した。 DOMショッピングセンターでは屋上において「ISSの若田さんに手をふろう！」を実施したほか、当館工事に伴うプラネタリウム投映休止期間にDOM内の広場を借りてワークショップを開催した。 氷川神社においては地域の観光名所であると同時に空も開けているという特徴を生かして観望会を企画・実施した。
地域団体への支援活動	市民団体「さいたまプラネタリウムクリエイト」やさいたま市青少年宇宙科学館、埼玉大学と連携し、イベント投映や大学の講義の補助を行った。また、日本宇宙少年団さいたま支部の事務局運営及び活動支援を行い、各分団長やボランティアと連携し、計27回の活動を実施した。 その他、地域の企業として、大宮アルシェ、DOMショッピングセンター、NACK5と連携してのイベントや、氷川神社での観望会など、地域と連携した事業も実施した。
利用促進・広報活動	利用促進・広報活動として以下を実施した。 ・オンラインを用いた広報活動の促進 ホームページの随時更新を行うとともに、Twitter公式アカウントとブログにより宇宙劇場のイベント情報や、投映内容、天文現象等の楽しみ方を積極的に発信した。 ・パブリシティの強化 電子媒体、書籍問わず、当館を取り扱いたいという要望に積極的に対応し、それぞれ読者層の異なる幅広い世代にアプローチした。 ・地域施設との広報連携 大宮区内における各施設との協力事業を広報し、または地域施設へ広報連携を依頼し、所在地近隣における広報活動の強化・認知度の向上を図った。 ・地元FMラジオ放送局のNACK5との連携 NACK5の番組に当館職員が出演し、天文・宇宙に関する話題を提供するとともに、当館事業の紹介を行った。

３　評価

（1）指定管理者による評価

さいたま市宇宙劇場の仕様業務において、市の定める宇宙劇場基本方針を職員全員で共有理解し、施設の設置目的を達成すべく前項に記載した提案事項を実施し施設の管理運営を行なった。
また、「市民の平等利用、市民サービスの向上、利用促進」「経費の削減」「適正な管理運営の確保」の観点から、提案事項の欄へ記載したことの他、各事業ごとに以下の業務をおこなった。

【プラネタリウム運営事業】
・市民への施設認知度の向上をもって利用促進を図るため、市民団体、地域企業、異分野・異業種の専門家とのコラボレーションを積極的に推進し、普段プラネタリウムを利用しない利用者層へのアプローチも行い、利用促進を図った。
・NPSアンケート調査を年間を通して実施し、管理運営にフィードバックし市民サービスの向上を図った。
また、改善した内容を館内掲示板にて周知した。
・施設ホームページをリニューアルし、利用者により分かり易い案内表示を提供した。
・プラネタリウムメーカーおよび映像プロダクションであるノウハウを活用し、市民のニーズにあったオリジナル番組を制作することにより、利用者の満足度向上を図りながら経費を削減した。
・内製の企画展（若田宇宙飛行士展）を行い、経費を削減しつつ、最新の情報を市民の皆様にお届けした。
・コロナ禍において取得した氏名や連絡先等の個人情報を適切に管理し処分した。
・使用しない場所の電気を小まめに消灯するなど、節電を徹底した。

【集会室等の貸し部屋事業】
・利用者に施設の利用申請や利用案内について分かりやすくまとめた冊子を作成した。
・早く利用が終了した部屋は空調を停めるなど、こまめな節電を実施した。
・職員が随時施設内を巡回し、安全確認および施設不具合等を確認、軽微な壁紙の補修や修繕を実施。
・定期的に貸出備品の点検を行い、貸し出し備品のメンテナンスと修繕を実施し、利用者へのサービス向上と経費削減を図った。

【日本宇宙少年団さいたま支部運営補助事業】
・展示コーナーをリニューアルし、日本宇宙少年団さいたま支部の活動内容をわかりやすく紹介した。
・野外体験事業を実施する際に職員を動員し、団員が安全に活動出来る様に支援した。

（2）さいたま市の評価（評価担当課：教育委員会事務局生涯学習部青少年宇宙科学館）

総合評価（B）※A～D
・指定管理者として本年度は5年目を迎えた。引き続き、市民誰もが安心安全に利用できる施設運営を行うことができた。
・プラネタリウム運営事業では、普段プラネタリウムを利用しない利用層へも促進を図った。また、市民のニーズにあったオリジナル番組を制作し、満足度の向上を図りつつも経費の削減を図ることができた。
・所管課と指定管理者との定期的な連絡協議会を行うことで、共通理解・共通行動を行うことができ、よりよい経営の方向性を見出すことができた。
・利用料金収入が前年度を上回ることができた。

（3）来年度の管理運営に対する指導事項等

・大宮駅そばにある立地を生かして、今後も市民の科学知識の普及と文化活動の推進を図り、地域文化の向上に寄与すること。そして、更なる入場者数の増加、市民満足度の向上を目指すこと。
・令和4年度には　近隣の商業ビルとの協力をいただきながらイベントを開催することもできた。今後も是非地域密着を図り、業務を進めていただきたい。